

Zoom 参加 9 名)、大学 4 名 (代田浩之保健医療学部長、坂野康昌学生部長、筆者、場集田孝係長) でした。

今回の議題は①定例総会報告 (2023 年度役員、保護者会支出他)、② 2022 年度予算進捗状況報告、③修学援助基金、④ 2023 年度年間行事予定等について検討しました。①の保護者会支出については、コロナ禍における保護者会支援のあり方として「学生活動への補助」「修学援助金」とともに、理学療法学科・診療放射線学科とも国家試験があるので「国家試験対策への補助 (模試補助等)」を軸として「4 年間の総支出が見える化」して定例総会にて説明し承認を得たことを再確認しました。

大学からは、代田学部長より学事やイベント、入試、国家試験対策、就職支援、国際化への取組み (海外短期留学実施報告) 等についてスライドを用いて説明があり、坂野学生部長より自治会・クラブ活動・奨学金等の学生生活支援状況、就職活動への取組みや支援体制等について説明がありました。

学生達は、年末年始休暇をはさんで定期試験及び進級判定・卒業判定を迎えます。新型コロナウイルス感染症はまだまだ先行きが見えない状況ではありますが、学生や保護者の方々が感染対策に万全を期してこれ乗り越えるとともに、今後も学生達が充実した学修や学生生活を送れるよう、保護者会と大学が連携して支援していきたいと考えております。

今後ともご支援の程よろしくお願いたします。



会長挨拶



代田学部長の説明

## 後援会だより

### 医学部後援会

副会長 小笠原 範之

皆様、あけましておめでとうございます。

新年の当会の活動は、2月の「後援会学術奨励賞及び準賞」の受賞者選定から始まります。選考委員は長岡功名名誉教授、藤巻豊会長、渋谷肇副会長の予定です。続いて3月の役員会、6月の定時総会と続きます。昨年はやむなく「書面決議」で議案の審議を行いました。しかし

11月の三役会は、本当に久しぶりに直接お会いし、親しく語り合う機会を持つことができました。こうした、以前はあたり前の事がいかに大切であったか、身に染みて感じた次第です。

しかし今後状況が好転しても、全面的に対面に戻る事はないと言われます。対面に負けない、高度な非対面のコミュニケーションを成立させる技術など、データ・トランスフォーメーション（DX）が、医療分野は言うまでもなく、普段のコミュニケーションでも、より一層重要になりそうです。学術奨励賞の対象研究にも、そうした医療とDXの分野のものがどんどん増えてくるのではないかと期待しています。

また昨年は世界中で、本当に様々な出来事がありました。明るい事柄としては、感染症拡大に対応しつつ、社会生活を通常に戻そうという努力が世界中で見られました。11月のFIFA・ワールドカップ・カタール大会開催は、まさしくそうしたことの良い例でした。さらにこの大会は、戦略の高度化、選手の育成やイベント運営の精緻化、セキュリティの強化、医療体制の確保などにDXを基軸にした、AI及びデータサイエンスが広く現場活用されたことも、注目を集めました。箱根駅伝などでも、こうしたものをいち早く導入、活用した大学が、優位に立つのでは、いや、立っているのではないのでしょうか。

一方で、ロシアとウクライナの紛争など、受け入れがたい行為も国内外で猛威を振りました。その影響もあり、世界的なインフレが懸念されました。米国金利の上昇、我国の金利の据え置きから、数十年ぶりの対ドル円安が日本経済を揺さぶりました。こうした事態を回避、解決するには、国家間の対応だけでなく、民間における国際交流の深化などの不断の努力が必要になることは言うまでもありません。

わが順天堂がこうしたテーマに先頭に立って挑戦し続ける姿を誇りに思うと同時に、後援会活動を通して、また会員個人としても、精一杯応援したいと考えています。

当会は、1975年3月設立以来、順天堂大学と卒業生の保護者の皆様との連携をはかり、卒業後子弟の成長に資することを第一の目的として運営しております。未だご入会いただけない卒業生保護者の皆様、是非ご入会いただき後援会活動に積極的にご参画頂きますようお願い申し上げます。

後援会活動、入会手続き等の照会は、下記までお願いいたします。

▽医学部後援会事務局

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス事務室内

Tel：03-5802-1021 Fax：03-3814-6576

・順天堂大学医学部後援会ホームページ

<https://www.juntendo.ac.jp/kouenkai/>

